

代々受け継がれてきた進藤家
現在は佐中千年家と呼ばれ
昔の佇まいをそのままに残している

裏路地探険

千年家のある里／朝来町佐中

朝来町佐中の集落のまん中に
ある、ひとときわめだつ大きな茅葺
きの屋敷が「本家」と呼ばれる進
藤家である。平成2年、通称「千
年家」と呼ばれるようになった。

伝説によると千年家の祖は近
江の国(滋賀県)三上山に棲息す
る大ムカデを退治し、関東八州を
平定し京を攻めようとした平将
門を討伐した鎮西將軍藤原秀郷
公(依藤太秀郷公)であるという。
その末裔の9代後胤(約200
年後)の進藤権之進(1135年)
を開祖として、現在27代の当主の
進藤正雄氏(茨城県在住)に至る
860年間、家系が継承されてき
た。初代権之進より第7代目に
当たる小源太敦景が、はじめて朝
来町佐中に住むようになり、その
後、第13代吉左衛門正国によつて
建築されたのが千年家である。1
464年、佐養神社が改築され、

その頃に千年家が建築されたで
あろうと推定されている。
進藤家の歴代当主の中で歴史
に大きな足跡を残した人物は、22
代丈右衛門長廣氏の六男、俊三郎
長政氏である。11歳にして八鹿町
の青谿書院で池田草庵に学び、1
863年生野義拳に参加、その
後、原六郎と改名した。明治維新
後、アメリカ、フランス、イギリス
と留学し、帰国した彼は金融業界
へ入り、第百国立銀行の頭取とし
て活躍し、その手腕は世間に高く
評価された。

のちに金融業だけにとどまら
ず、各地で発電、紡績、炭鉱、造
船、ホテル、鉄道などの創業に関
与。明治・大正時代の日本財界に
君臨した渋沢、安田、大倉、古河
などと共に「日本財界5人男」と
呼ばれた実業界の大物であった。
また、平成13年文化勲章を受章
された彫刻家、淀井敏夫氏も進藤
家と関わりがある。淀井氏のお
父さんが進藤家が経営する進藤
林業株式会社勤めていたことか
ら、淀井氏自身も1911年佐中
で生まれ幼年期を過ごしている。
淀井氏の作品はあさご芸術の森
美術館で見ることができる。



深高寺(じんこうじ)
生野義拳の時、この家まで逃げ帰った
原六郎だったが、幕府の追っ手が迫り、
裏から逃げ出し、向かいの深高寺
の2層ほどの須弥壇に隠れて
難を逃れたと伝えられている。

自動車の交通安全祈願
してもらえ



千年家のいわれが
記されている



原六郎の
大理石の肖像

中庭には季節の木々が配置され、
奥の間から観賞することができる



時代を感じさせる重厚な門構え



きれいな水が流れ、当時のようす
を彷彿とさせる

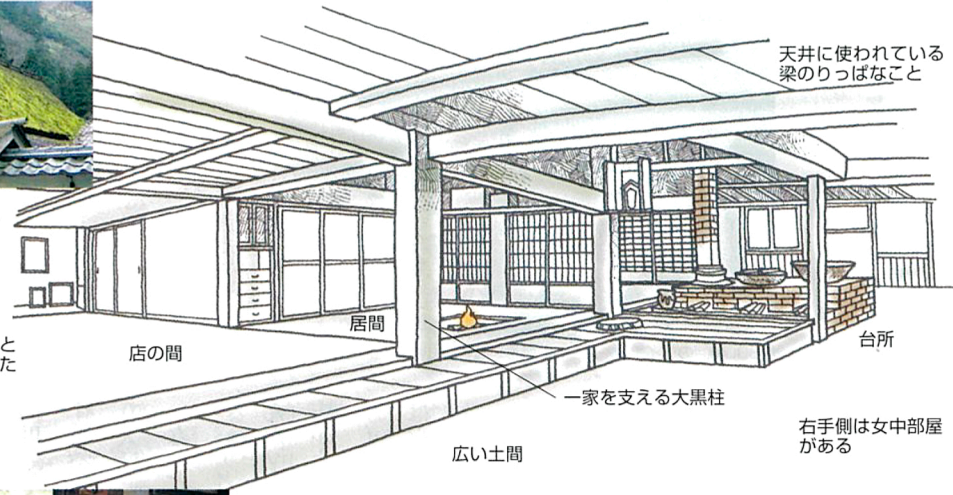
昔、屋敷の隣に製糸工場を建てて
経営していたことがあり、その
時、防災のために池をつくった。
製糸工場はなくなったが、池はそ
のまま残っている。



至朝来町佐のう

佐中千年家(朝来町)

860年間続く進藤家の屋敷。
築500年以上が経っている。
敷地面積 4205平方メートル
本 邸 1937平方メートル
周辺宅地 2208平方メートル
見学を希望される方は事前に朝来町
教育委員会社会教育課へ電話予約を
入れてください。
TEL.079-677-1165



居間には囲炉裏があり、火がたかれていた
囲炉裏を囲んで、話を聞くみなさん



裏庭からの眺め



美しい茅葺き屋根



昔の金庫が無造作に置かれていた
棚には昭和初期のハガキがどっさり



案内をさせていただいた進藤嘉津美さん
進藤家の分家、現在千年家を管理され
ている。進藤家の系図や歴史など研究
し残されている



千年家正面

築500年以上が経っている千
年家の門はしっかりとしており、
中にはいると木々が美しい庭があ
る。その庭に、大理石でつくった
原六郎氏の肖像が飾ってある。家
の中には広い土間があり、右は女中
部屋、左には座敷に囲炉裏があ
り、いつも当主がドンと腰をすえ
ていたという。
現在、千年家には誰も住まわれ
ていないが、進藤家分家の皆さん
たちが管理をされ、昔のままに保
存されている。事前に申し込めば
見学もできる。近年ではコンサー
トや絵画の展示会などの会場と
して利用されることもある。
佐中の山々は急な斜面である
が、そこには美しく並んだ杉が植
えられている。林業の里として栄
えた一端を見たような気がした。
日本の歴史に名を残す人物を生
み出した千年家の里。今は静か
な山間の里として息づいている。